



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0856 横浜市神奈川区三ツ沢上町8-5 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://www3.plala.or.jp/wwt/wwfk.html>

## 2012年介護保険はどう変わったのか 高齢者への影響を考える

阿部 健司さん(横浜市社会保障推進協議会)

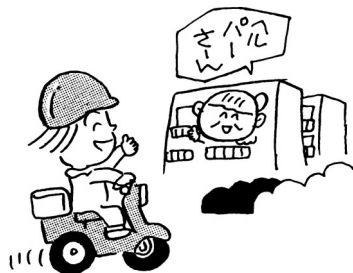
2012年度は介護保険制度が大きな曲がり角にさしかかった年度です。ご承知のとおり、「社会保障と税の一体改革」での先行走者の役割を担っているのも介護保険の分野です。今年の通常国会で審議されている医療、介護分野での効率化優先、給付削減の改革の先取りとして、昨年6月に介護保険法の改正が行われました。改正法のなかで新規の介護保険事業として、24時間定期巡回随時対応型訪問介護看護サービスや複合型サービス(小規模多機能居宅介護事業と訪問看護サービスの組み合わせ)などが始まっています。また、介護保険の市町村での3年ごとの計画は、2012年度から第5期をむかえます。ここでは3年ごとに新しい介護保険料が改定され、各市町村での介護保険の味が計画を基に整備されます。特別養護老人ホームの整備、増床計画などがこれに当たります。横浜市では特養の増床は今後1年に300床程度、老健や介護療養型病床の新規増床は認めていません。ちなみに前期計画では特養の増床は年平均700床でした。

また今年は、診療報酬と介護保険報酬の二つの報酬改定が同時に実施される年度としてその影響が注目されています。

### 市民生活への影響

#### —介護保険料と介護報酬改定からの影響

1) 横浜の介護保険料は年6万円(標準額)に「第4期に値上げしなかった市町村も今回は全て保険料の引き上げを打ち出した」神奈川県の高齢福祉課との昨年末の懇談で知らされました。横浜市では第4期までの標準保険料額(月額)が4,500円から5,000円に引き上げられました。



横浜市社会保障推進協議会の保険料値上げ中止を求める署名など請願を行いました。介護保険料の制度設計は市一般財政からの補助が制限されているため、介護保険法の財政措置に市費の補助が認められません。実績・介護給付見込みを参酌し県内全ての市町村で値上げが行われました。

### 2) 訪問介護サービスが時間短縮に

現実に介護を受けている方の問題として介護報酬改定の影響が現れています。訪問介護生活援助サービスの時間区分を45分未満としたことです。そのためにただちに訪問サービス時間を「45分」とした事業者が現実に出てきたこと、生活援助サービスの事業から撤退した事業者も出たという話も聞きます。(こうした業者は「定期巡回サービス」事業にシフトを想定)従来型の業務スタイルでは現実に報酬の引き下げであり事業者にとって辛いところですが、一部では「損益分岐のぎりぎりまで見極めて、必要なサービス提供は60分で行う」という事業所もあります。(次ページへ)

### 第4回

#### はたらく女性のフロアかながわ総会

日時 2012年7月26日(木)

18時00分~20時45分

場所 かながわ県民センター3階301会議室  
(電話045-045-312-1121(代表))

内容 第1部 総会 18時00分~18時45分  
2011年度の活動経過・会計報告  
2012年度の活動方針・事務局体制  
2012年度会計予算(案)議論・決定

第2部 学習会 19時~20時45分

増田正人氏(法政大学教授)

テーマ「世界経済の行方と日本」

—生き残り競争では生き残れない—

### 3) デイサービスでも時間区分の「変更」で利用者、事業者双方に選択が迫られた

通所系サービスではデイサービスの時間区分が「6時間以上8時間未満」の区分が「7時間以上9時間未満」に変更になりました。これによって、午前10時～4時（施設在所時間6時間以上）というサービス時間をとっていた事業所では、7時間以上でなければ従来と同水準の報酬が受けられなくなります。

ある集會に寄せられたデイサービス改定の影響は年間収入で400万円減少といわれています。このため時間を短縮して、低いながらの報酬で人件費も抑制して実施するか、なんとか8時間にして維持するか、利用者を送り出す家庭などの事情を抜きにしたサービスへの変更が始まりつつあります。「8時間」にするためには職員の勤務シフトの変更などいっそうの経営努力が必要になってきています。

### 4) 利用者、事業者を「対立関係」に — 処遇改善加算の新設 —

介護報酬改定のうち、これほどまでに施策の乏しさと「無恥」を表した名称がないと感じるのが「処遇改善加算」です。利用者に誤解と負担を押しつけ事業者と利用者の対立をいたずらにあおる、愚策の典型です。

まだ、改定から1ヶ月で利用者の経済的問題など表面にでてきていませんが、数ヶ月後には新規サービスの影響などが顕著になると考えます。

公的介護の改善にむけ学習など準備をしていきましょう。



## どの子もみんな夢と希望を 持てる社会に

会員 坂田 綾子

(新日本婦人の会神奈川県本部常任委員)

中1の娘が小学校卒業の際、持って帰ってきた卒業文集。「漫画家になりたい」「イラストレーターに」「CAに」…。でも、もしなれなかったとしても、という一文のなんと多いこと。私が子どもの頃は、「頑張れ、努力すればなれる」と親も先生も言ってくれた。今はとてもじゃないが、そんな能天気なこと子どもたちに言えない…。「どんなにつらい時代でも生きていく知恵は身につけないと…」と、なんて消極的で夢も希望もない子育て。

若者の就活自殺が年間200件に。2009年から2010年にかけて、大学生の自殺は2倍に。いくつもの企業からの圧迫面接などで増える「就活うつ」と「就活自殺」。内定時にしか連絡が来ず、不採用の場合は期限も決められず、連絡を待ち続けることも。面接を行う度に気を失っていくと聞いた。

先日、黒岩知事との若者の非正規雇用を考える懇談があった。就活支援をしている団体の方も多く参加していた。途中、自分をどう表現したらいいかわからない若者と中小企業とのミスマッチの

話になったが、「非正規雇用は必要ない」という高校の先生の発言で、流れが変わった。知事が当てる人当てる人、ほとんどの人が、個人の實力や努力の問題ではなく、「選択でなく、否応なしに非正規に行かざるえない実態が問題」「充分なパイがない」と、構造的な問題だと指摘した。

知事は、「これをやれば解決するというものではない」と言ったけど、若者に仕事がない国に展望はない、このことだけは誰にでもわかる。不登校、中退、障がい…少しでも道を外れると将来が閉ざされる現実。どんな子でもそれぞれの目線や長所が活かされる仕事があれば、社会全体がそういう空気だったなら、子育てはこんなにきつくない。そうすれば子どもたちも、もっともったのびのびと、人間や自然に優しい社会をつくる担い手となってくれるのではないか。

どの子もみんな夢と希望を持てる社会に。私がそんな夢と希望を持って楽しく生きること。仲間がたくさんいるということ。子どもにその姿を見せること。そのことが何よりも子どもが夢と希望を持って生きる力を自ら蓄えるのではないかと毎日好き勝手にやっている。



## 韓国訪問

### 「忘れないで」とハルモニは繰り返した

会員 君嶋千佳子

今回の韓国訪問の主な目的は、日本軍「慰安婦」の被害女性たちが住む「ナムムの家」を訪れることでした。

初日、ソウル大使館前の少女像を訪ねました。例年になく寒い三月の初め、その像は、コートを重ね帽子や暖かそうなブーツを身に付けていました。韓国の人たちのこの像への思いを見るようでした。日本政府の恥知らずな撤去要請に改めて怒りを覚えながら、私たちはしばしその前に佇みました。

「ナムムの家」の交流で印象的だったことは、その顔の陰しさでした。私は勝手に、苛烈な経験をした方の長い期間を経て到達する穏やかな顔を想像していたのでしょう。でもその陰しさは当然です。10代以降の人生を奪われ、辛い沈黙を経て1991年初めて金学順さんが名乗り出て以来の闘いにも関わら

ず、日本政府は未だ謝罪さえしないのですから。度々裏切られたことからくる諦めのような表情も私は感じてしまいました。

「何も要らないから、15歳の私を返せ」と振り絞るような言葉が発せられましたが、それができない日本政府は、誠実に謝罪し可能な限りの償いと反省をするしかないのです。彼女たちは「日本政府は私たちが死ぬのを待っている」と言いました。ドイツを初め謝罪と反省を重ねてきた国もある一方で、なんという情けない国でしょう、日本は。彼女たちには、もう時間がありません。

終始穏やかな表情だったただひとりのハルモニ朴さんは、いつまでも私たちの手を離さず、寒い日だったのに玄関まで見送り「忘れないで」と繰り返しました。

日本軍「慰安婦」問題解決に向けて韓国挺身隊問題対策協議会という組織があります。若い女性たちが生き生きと活動していました。水曜デモも学生の参加が多く見られました。総じて、韓国社会は見るべきものを見、主張すべきことを躊躇せず述べ行動するという意味で、日本より遥かに健全であると思いました。

## ドキュメンタリー映画

### 「弁護士布施辰治」を観て

会員 伍 淑子



私は5月6日、藤沢市民ホールで国民救援会藤沢支部・治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟湘南支部の主催で開催したこの映画を観ることができました。

この映画は、布施辰治生誕130年、韓国併合100年を記念して作成されました。明治、大正、昭和の激動の時代に弁護士として民衆のたたかひの先頭に立ち、自らもたたかひに参加し

た弁護士であり社会運動家であった布施辰治の姿を忠実に表したドキュメンタリー映画です。明治13年に宮城県に生まれ、検事補を経て弁護士となり、1918年の米騒動事件の弁護をかわきりに、朝鮮独立事件や1923年の関東大震災時に起こった朝鮮人虐殺の真相究明に奔走するなど、朝鮮との深いつながりが鮮明に描かれています。1912年の自由法曹団の設立に尽力し、その後も一貫して民衆の弁護士として活動しました。

戦後は、1946年の食糧メーデー事件、1952年の

血のメーデー事件、1949年の三鷹・松川事件などの国家的謀略事件の弁護を引き受け奔走しましたが、三鷹・松川事件の無罪を見ることなく1953年に72年の生涯を閉じました。長年の活動が評価され、2004年には韓国建国勲章を授与されています。自主上映作品のため、どこでも観ることができないのが残念です。作品の著者は、布施辰治の孫、大石進さん。

全編を通じて布施辰治と交流のあった人々が登場して布施との係わりをインタビューで語っています。随所に当時の社会状況や戦前の裁判の状況も挿入されていて歴史的にも興味深い映画です。3.11東日本大震災の被災地、石巻市、東松島市、女川町も映像に登場している関係で、映画製作の後援もしています。とりわけ、日本の天皇制国家による朝鮮に対する植民地政策を遂行するため、在日朝鮮人弾圧の嵐が吹き荒れる困難の中、その人たちを守るためにたたかひの姿が証言者により語られているのが印象に残りました。こんなすばらしい弁護士がいたことを知りませんでした。

正義を貫いてたたかひたった彼が、非正規労働者の理不尽な解雇撤回の訴えを退け、アスベスト被害者の命をかけた訴えを証拠がないのひとことで切り捨てる現在の司法の姿を見てどうおもうのでしょうか。また、どうたたかうのでしょうか。観終わってそんな感想を持ちました。弁護士とは、かくあってほしいとも。こうした歴史に残されない人々の生きた証をきちんと残し、語り伝えることの大事さを痛感しました。



## 母親大会に参加を！

会員 高浦 福子

(第57回神奈川県母親大会・

第13回厚木母親大会実行委員会事務局長)

“生命を生み出す母親は生命を育て生命を守ることをのぞみます”のスローガンのもとに全国47行政区にある母親連絡会、今年の神奈川県母親大会は、厚木母親大会と共催で9月1日厚木市文化会館で行われます。記念講演の渡辺治先生は東京の母親大会はもちろん日本母親大会、県内でも今月、神奈川県の保険医協会での講演、全国紙である『婦民新聞』の一面に掲載されるなど大活躍です。期待してください。

なんとといっても一年がかりで新潟で行われる日本母親大会の分科会が決まりました。とりわけ「人間らしい働き方、はたらく権利」の分科会の内容は神奈川から「雇用の確保、あり方、長時間過密労働の問題」などの意見を発信していきました。

「はたらく女性のフロアかながわ」のみなさんに、新潟で奮闘していただきたいことと、神奈川の母親大会、第8分科会、「人間らしい働き方、はたらく権利」のところには大勢ご参加いただき、神奈川の女性の実態と展望を語っていただきたいと思えます。

今後とも神奈川県内のはたらく女性の様々な問題をご一緒に学びお力添えいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

**第57回 神奈川県母親大会**  
**第13回 厚木母親大会**

2012年 **9月1日(土)**  
10:00~15:50

**厚木市文化会館**  
厚木市ヤングコミュニティセンター  
資料代 1000円  
小田急線 本厚木駅下車12分  
045-225-2555 芝山店  
ヤングコミュニティ 東口1分

分科会 10:00~12:00  
10分科会  
全体会 13:00~15:50  
オープニング 藤山白龍太鼓  
文化行進 佐藤真子さん  
びらりの強きがたり  
運動の交流、アピール採択など

記念講演  
**震災後の私たちのくらし!**  
~希望をもって生きるために~  
渡辺 治 さん  
—橋大学名誉教授—  
格差社会は深刻化をまし、大震災、原発事故と連続した災害に被災者は立ち止まれないでいきたいと思います。未来への想像力が問われています。よって立つべきビジョンについて、設備無尽に現状が分かれます。政治学、社会学、1947年卒。

分科会 10:00~12:00  
1 映画「フーイング」 映画鑑賞の30分  
2 くらした社会福祉士さん 市原千恵子(東武東上線分科会)  
3 早稲田大学 社会福祉学部の山崎 由美子(東武東上線分科会)  
4 福祉学 福祉学部の山崎 由美子(東武東上線分科会)  
5 新聞で学び 経済学部の山崎 由美子(東武東上線分科会)  
6 シンク 高野 由美子(東武東上線分科会)  
7 神奈川内務 警備部長の山崎 由美子(東武東上線分科会)  
8 人間性 山崎 由美子(東武東上線分科会)  
9 山崎 由美子(東武東上線分科会)  
10 文学分科会 作家小林多喜二追悼会

主催 第57回神奈川県母親大会実行委員会  
住居 横浜市中区磯野3-8-13 3F 312-02  
Tel/Fax 045-641-8815  
Kanahaha@hokuhahaoya.net

後援 神奈川県 厚木市 厚木市教育委員会 厚木市文化会館 厚木市ヤングコミュニティセンター 厚木市立中央図書館 厚木市立図書館 厚木市立市民会館 厚木市立中央公民館 厚木市立中央児童館 厚木市立中央青少年センター 厚木市立中央スポーツセンター 厚木市立中央公民館 厚木市立中央児童館 厚木市立中央青少年センター 厚木市立中央スポーツセンター 厚木市立中央公民館 厚木市立中央児童館 厚木市立中央青少年センター 厚木市立中央スポーツセンター

## 第17回シンポジウム

「大震災・原発事故／  
アジアの平和と田中正造」に参加して  
会員 本間 重子



“足尾銅毒事件・田中正造”は、皆さん中・高校生の時教科書で学んできたかと思えます。

“歴史上の人物”と思われる田中正造を「現代に活かすシンポジウム」が毎年2月栃木県佐野市で開催され、今年も17回を数え

ていることを皆さんはご存じでしょうか。

私は数年前から気になってはいたのですが、昨年(第16回)初めて参加しいろいろ感じるころがありましたので、今年(第17回)も参加しました。

昨年のテーマは「日本とアジアの真の友好のために」でした。前菅内閣のもと「新防衛計画大綱」が出された直後であったので、足尾銅毒被害に苦しむ人々を救うために半生をささげた田中正造が、アジアの平和と日本の立場をどう考えたのか、学ぶことができました。手短には述べられませんが、今から100年も前に「韓国併合」に反対し、日露戦争では反対の態度を明確にする等、アジア諸国との連

帯・平和な話し合いによる近隣諸国の関係を希求したこともよくわかりました。

田中正造は衆院議員時代「民を殺すは国家を殺すなり」と、鉱毒被害者をかえりみない政治の非を追及しました。

東電福島第1原発事故から1年近く経った今年2月19日、第17回シンポジウム「大震災・原発事故／アジアの平和」が開催されました。

福島第1原発事故は、明治期後半に起きた渡良瀬川鉱毒問題と重なります。鉱毒被害農民と田中正造の闘いから、現代の国民的革新の課題を考えようという意気込みが感じられました。基調報告(例年梅田欣治宇都宮大学名誉教授)のほか、現地福島からの報告、吟詠などがあり興味深いものでした。

原発と同様に足尾銅山は国策で開発され、産銅量急増により広がっていった渡良瀬川下流域住民の健康や農漁業被害=鉱毒が、1890(明治23)年の大洪水で表面化。この時国会で質問した田中正造に対し、政府は銅山の言い分そのまま「原因は不明」と答弁。

今回の原発事故の、東電発表を鵜呑みにした政府の説明と同じです。鉱毒問題を洪水問題にすり替えた政府の遊水地化計画で谷中村は滅亡しました。

「一村を亡ぼすは一国を亡ぼすに同じ」と谷中村に移り住んで、廃村と闘った田中正造から学び、現代に活かす課題はあまりにも多いと思えました。同時にあらゆる面から田中正造の研究を深めて、闘いを現代につなげようという多くの方々熱意を強く感じました。